

宇田切太郎  
纂編

商業教本

前編

東京  
興發社

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
社會科學門		
教育部		
教授法	款	史業科項
目		次
全	2	冊ノ内第 冊
分類 番號	第	號
372.6		





図書 和図書 遡



a 1 3 8 0 3 2 9 9 3 7 a

福岡教育大学蔵書



運陸と運水

51甲室陽東典泉

670.78

Se 93

(1)

### 初等商業教本凡例

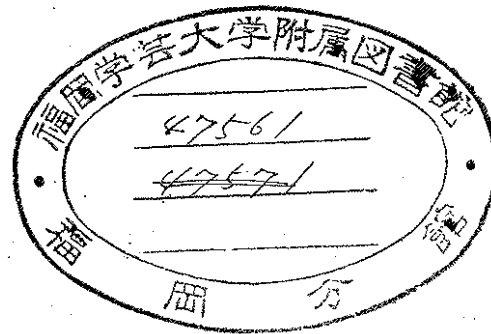
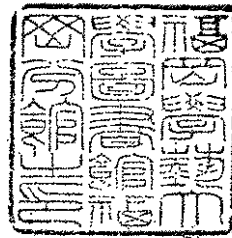
- 一、本書は、現行の小學校令および同令施行規則に基き、高等小學校の商業科用に充つる目的にて、編纂したり。
- 一、本書は、児童をして、商業に關する一般の知識を求得せしめんことを期し、商業教授上もつとも適切なる材料を選びて、これを觀察的に記述し、かつ、圖畫・雛形等を多く挿入して、児童の理解を容易ならしめんことを力めたり。
- 一、本書は、他の諸教科中、ことに、算術・地理等との聯絡に注意して、教授の統合を全からしめんことを圖りたり。
- 一、本書は、一學年および四十週の場合にて、教科の分量を定められたれど、毎課長短一様ならざるがゆゑに、教授者は一週に二課を授け、あるひは、二週に亘りて一課を授くるなど便宜、これを適用すべし。
- 一、本書は、別にこれに附屬する教員用書を具へたれば、教授者は、便宜これを參照せんことを要す。



初等商業教本前編

目次

第一課	商業	一	第十五課	商業算術	三十一
第二課	商業の種類	三	第十六課	帳簿	三十三
第三課	古の商業と今の商業	七	第十七課	信書	三十六
第四課	商品	八	第十八課	商店の設備	三十九
第五課	需要	九	第十九課	商品陳列所	四十一
第六課	供給	十	第二十課	廣告法	四十三
第七課	物の價	十二	第二十一課	米	四十六
第八課	物の價の高低	十四	第二十二課	生絲	四十八
第九課	仕入	十六	第二十三課	註文	四十九
第十課	賣捌	十八	第二十四課	小賣の取引	五十二
第十一課	掛直の弊害	十九	第二十五課	印賣の取引	五十四
第十二課	貨幣	二十一	第二十六課	問屋	五十六
第十三課	紙幣	二十四	第二十七課	仲立人	五十九
第十四課	度量衡器	二十七	第二十八課	競賣	六十一





第二十九課	判取帳	六十二
第三十課	送り状	六十四
第三十一課	郵便	六十七
第三十二課	電信	七十
第三十三課	商業と地理	七十五
第三十四課	交通運輸	七十七
第三十五課	運送問屋	八十一
第三十六課	荷造と荷印	八十三
第三十七課	商標登録	八十五
第三十八課	商號登録	八十八
第三十九課	特許と意匠登録	九十
第四十課	商人と商訟	九十三
第四十一課	経験	九十五
第四十二課	運はみづから造る	九十七
第四十三課	商家子弟の心得	九十八

目次

初等商業教本前編

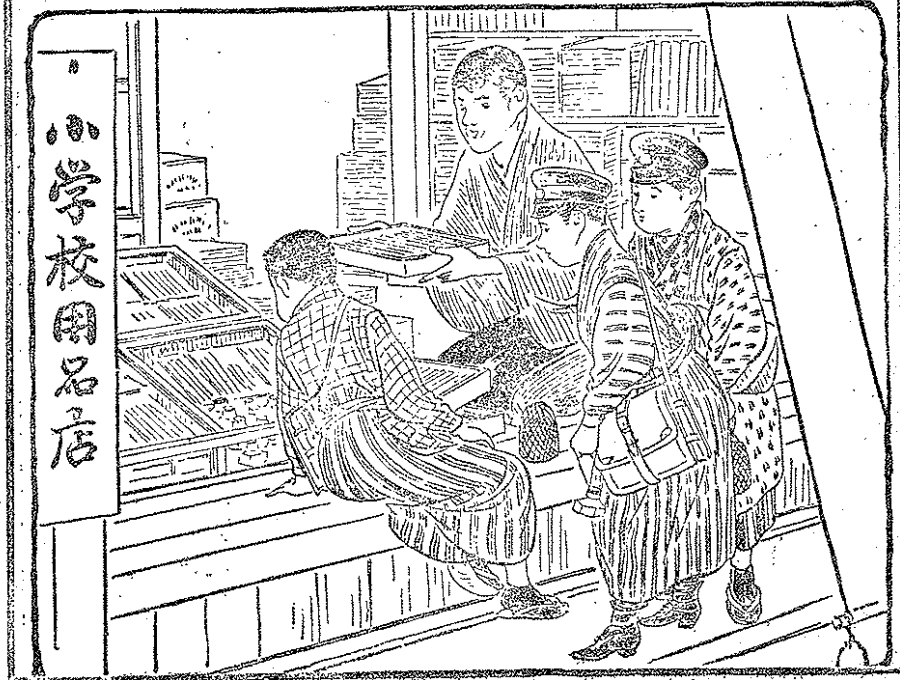
商業學士 切田太郎 編纂

第一課 商業

われらが、日々、讀む書物、字を書く筆、あるひは、食ふ米などは、とれどれ、本屋、筆屋、米屋より買ひたるものなるべし。この本屋、筆屋、米屋などのごとく、物を買ひおきて、これを望む人に賣り渡すなどの仕事を、すべて商業といひ、その仕事をする人を、商人といふ。



世に商業なからんには、人々の不便いばかりなるべきか。一本の筆と十枚の紙とを求めんとするにも、終日、筆造りと紙すきとを探し、つひに見當らずして、空しく歸るなどの不便あるべし。また、ある地方にて、



多くのよき米を産して餘りあるとき、これを他國に送り出して、賣る人なからんには、つひに、その米を腐らして、空しく棄つるに至るべし。これ、不經濟なることならずや。

然るに、商業の行はるるにより、何時にても、おのれの望む物を買ひ、または、餘れる物を賣ることを得て、大いなる便利を得、かつ、世の經濟となるなり。

## 第二課 商業の種類

商業は、その仕方によりて、小賣・卸賣・貿易な



どに分たる。その他、補助商業として、銀行業、運送業などあり。

われらが筆を買ひし筆屋のごとく、一度に多くのものを仕入れおき、これを少しづつ分けて賣るを、小賣といふ。小賣商人の數は、商人中にもっとも多し。また、多き品數を一まとめに買ひ取りおき、これを小賣商に分け賣りするを、卸賣といふ。たとへば、いま、筆を造る工場ありて、毎日數千本づつの筆を造り出すとせん。これを小賣りにて賣り捌くときは、大い

に手數を要するのみならず、たやすく賣りつくすこと能はざる不便あり。されど、これを一まとめにして、卸賣にするとときは、これらの手數と不便とを除く利益あるべし。卸賣商は、小賣商よりも、賣買みな、數多くの品を取り扱ふゆゑ、製造者のためには、便利多きものなり。わが國にできたる生絲を、外國に賣り出し、また、外國の織物を、わが國に買ひ入るることなどは、われらのよく知れることなり。かくのごとく、この國の商人とかの國の商人との間



に、賣買取引するを、貿易といふ。

金錢を貸借する銀行、旅人または荷物の運送を業とする汽船會社などは、普通の商人のごとく、物品を賣買するものにあらざれども、これらは、一般の商業を助くる機關として、きはめて必要なるものなり。ゆゑに、これらの業を、補助商業といふ。この外、補助商業には、保險會社、稅關取扱人など、多くの種類あり。商業の盛大に赴くに從ひて、これらは、いよいよ必要となるなり。

### 第三課 古の商業と今の商業

古は、汽船・電信などの便もなく、外國と往來することも少なかりしゆゑ、その商業は、國內にできたるものを、國內にて賣買するに過ぎずして、すべて小仕掛なりき。

然るに、今は、海に汽船あり、陸に汽車あり、郵便・電信は、世界到る處に通じ、千里を隔つる外國も、隣家のごとくなれり。ゆゑに、今の商業は、ただ内國のみに限らず、外國をも相手とする大仕掛のものとなり、從ひて、補助商業の設け



も、おひおひ備はるに至れり。

されば、今日、商業を営まんには、國內のことは、もとより、廣く外國のことまでも、十分に研究せざるべからず。

#### 第四課 商品

商人の賣買する物を、商品といふ。商品の種類の多きは、市街を通りて、商家の店をのぞけば、その店ごとに、種々の異なる物を並べおくを見るにても、知らるべし。されど、これを大別するときは、天産物と製造品と有價證券との

三種とすることを得べし。

天産物とは、自然に産する米・麥・材木・魚類・金石などをいひ、製造品とは、天産物に人手をかけて造り上げたる塗物・陶器・織物などをいひ、有價證券とは、公債證書・手形などをいふ。

#### 第五課 需要

商業には、「需要増したり」「供給止みたり」など、つねに、需要と供給との二つの語を使ふがゆゑに、ここに、これを説明しおくべし。

いま、われらが、紙を買はんとて、紙屋に到り、



價を拂ひて物を需めんことを望むがごときを、需要といふ。もし、あれらが紙を望むといひたればとて、ただ思ひたるばかりにて、真にその代價を拂ひて買はんとするにあらざれば、需要とはいふべからず。

なほ、この他に、需要の例を擧げんに、ここに人あり、口に飲まんとして、氷水を需め、身に著けんとて、木綿を需め、家を建てんとて、大工・左官の技術を需むるなど、是なり。

## 第六課 供給

紙屋が紙を賣るに、その代金を受けて、物と與ふるがごときを、供給といふ。すなはち、需要は、ほしと望む方にて、供給は、それに應ずる方なれば、供給は、需要の反對なり。

紙屋に、紙を供給するものは、製紙人なり。穀屋に、米穀を供給するものは、農民なり。また、あれらに、紙・米穀などを供給するものは、紙屋と穀屋となり。鐵道損じて運送の便なく、日用品の供給止みたりといふは、日用品を送りとどくる道絶えたるをいふなり。



なほ、この他に、農夫が、棉花を供給せんとして、草棉を作り、大工・左官が、その技術を供給せんとして、家を建つる人の需要を待つなどは、これみな、供給の例とすべし。

### 第七課 物の價

われらは、筆一本を買はんとするとき、二錢または三錢ばかり拂ひて、その筆を自分の物となすべし。かくのごとく、他人の商品を自分の物にせんとして拂ふ金錢を、代金といひ、その代金を、物の價といふ。

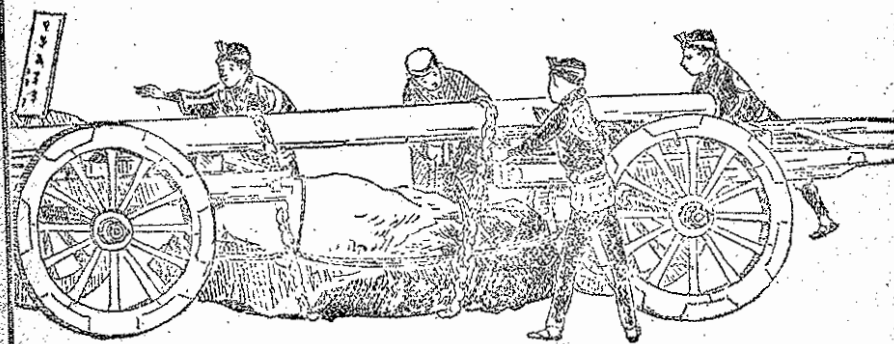
世の中にて、次の三箇條に當る物の外は、みな、價を有す。

- 一、少しも、人の益にならずして、必要なきものは、價なし。田畑に生ずる害蟲のごとし。
- 二、たとひ、人の益となるとも、その量多くありて、これを取るに力を勞せざるものは、價なし。空氣のごとし。
- 三、また、人の益となること多くとも、他人に引き渡すことのなりがたきものは、價なし。身體の健康など是なり。

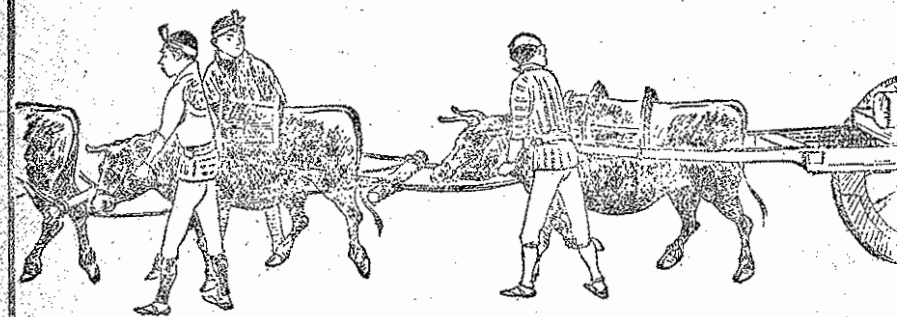


### 第八課 物價の高低

銀一匁の價は、鉛一匁の價よりも高きは、われらの知れることなり。また、庭園内の大石は、深山中にある大石よりも、その價高く、名高き畫師の描ける畫は、石版摺の畫よりも、その價高きは、また、われらのよく知れることなり。



すべての物、その製造費あるひは運賃の多くかかるものは、その價高く、然らざるものは、價低し。また、稀なる品にて、需要多く供給少なきものは、その價高く、然らざるものは、價低し。かく、物の價は、需要と供給との割合によりて、おのづから高低を生じ、政府の





法律にても、定めがたきものなり。

### 第九課 仕入

商人は、みづから商品を造りて、これを賣るものにあらず。みな、その製造者などより仕入れて、これを賣り捌くものなり。ゆゑに、商人は、商品を仕入るることにつきての注意、もつとも肝要なり。

商品は、その賣れ口、たしかなるものにあらずれば、仕入るべからず。また、その品質の良否精粗をよく目利きすべし。たとへば、木棉織を

絹織なりと欺かれて、仕入れたるとき、これを絹物として賣り捌かば、たちまち、得意客を失ふべく、木棉物として賣り捌かんには、かならず損失を招くべし。

また、商人は、仕入代價のなるだけ安きものを選ぶべし。仕入代價の安きものは、これを安く賣り捌くことを得るゆゑ、つひに、得意客に喜び愛せらるるに至るべし。されど、品質惡しくて價安きは、眞の安きにあらずれば、十分に得意客を得ること能はざるなり。



### 第十課 賣捌

商人は、仕入れたる商品を賣り捌くにつきても、また、仕入の時と同じく、十分の注意なかるべからず。

營業の盛んならんことを望まば、第一に、おのれの取るべき利益を薄くして、價安く賣り捌くにあり。價の高きと安きとをよく知るは、買手に若くものなければ、少しにても安く賣り捌くときは、得意客は、たちまち、四方より群り集らん。

かくのごとく、多くの得意客を得て、多くの商品をこなすときは、ますます安く仕入るることをも得るゆゑ、利益の總計は、かへって多かるべし。

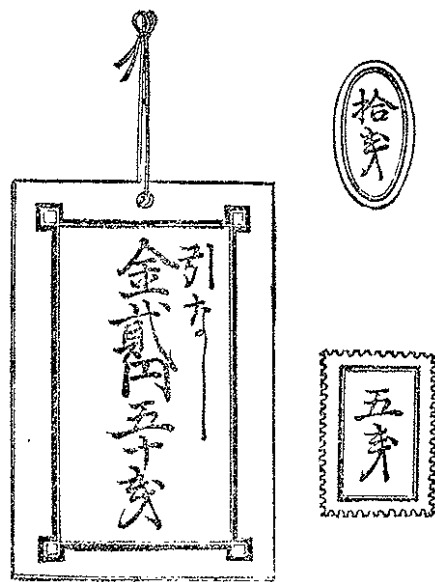
また、商品を賣り捌くときには、少しも虚言をいふべからず。虚言をいはざるときは、客は、品質などを目利きするにも及ばず、安心して買ひ得らるるゆゑ、永くその商店の得意となるに至るべし。

### 第十一課 掛直の弊害



わが國の商人の惡しき習はしの中、もっとも改めざるべからざるは、價金壹圓にて賣らんと思ふ物を、壹圓五拾錢といふがごとく、掛直をいふことなり。

商人が、つねに掛直をいふときは、客も、また、そのいふがままの代價にて、買ふことなくして、かならず直切るを常とし、無益の押問答に貴重の



時間を費し、かつ、直切ることをよくせざる子どもまたは使の者などをやりては、買ひがたき不便不利あり。

かかる賣買の法は、開けたる國の商人の、決してなさざることなり。よろしく、商品ごとに正價の札をつけおき、もっとも早く、かつ、何人にも買ひ得らるるよし、その習慣を改めんことに注意すべし。

## 第十二課 貨幣

物と物との交換は、不便多く、かつ、多額の取



貨金



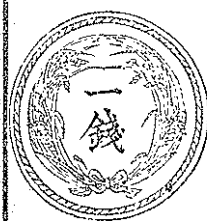
貨銀



白銅貨



貨銅青



引をなすべからざる  
ゆゑ、貨幣を用ゐて、交  
換の媒とす。貨幣は、い  
づれの國にても、萬人  
の好むものにて、容易  
にこはれず、かつ、その  
量少なくて携帯に便  
なる性質を備へたる  
金銀などにて、造るを  
法とす。

貨幣を角がたに造らざるは、永く通用する  
間に磨れ損ずるを防がんため、また、その模様  
を細かにし、縁に刻みを附けたるは、磨りへら  
してその量目をぬすむを防がんためなり。  
わが國、今日の貨幣法は、明治三十年に定め  
られしものにて、金貨を本位とし、純金二分を  
壹圓と定め、これに、貳拾圓、拾圓、五圓の三種あ  
り。その他、小額の取引に便せんために、五拾錢、  
貳拾錢、拾錢の銀貨および白銅貨、青銅貨など  
を設けられたり、これを補助貨幣といふ。その



他、銅貨などの、古くより通用し來れるものも、同じく通用せらる。

金貨は、幾萬圓を支拂ふにも、その高に制限なけれども、補助貨幣には、制限あり。すなはち、銀貨は、十圓まで、その他は、壹圓までを限りとする。されど、受取人の承諾したる場合には、この限りなし。もし、この制限なきときは、一々その數を改むるにも、これを持ち運ぶにも、甚しき不便あり。

### 第十三課 紙幣

金貨・銀貨等は、便利なるものなれども、多くの金額を取扱ふには、なほ、その量の重き不便あるを免れず。このゆゑに、各國、みな、貨幣に代用する輕きものを發行して、國內の通用を助けをれり。これを紙幣といふ。

わが國、今日の紙幣は、これを兌換銀行券といふ。これに、五圓・拾圓・貳拾圓・五拾圓・百圓・貳百圓の六種あり。日本銀行に持參して引替を請ふときは、何時にても、その券面に記されたる金高を、金貨にて渡さるる定めなり。ゆゑに、こ



れを兌換とはいふなり。なほ、この他に、他日償還せらるべき壹圓紙幣あり。

かく、紙幣は、一の紙片に過ぎざれど、何時にても、正貨と引替へらるるものなれば、あれらは、これを正貨と同じき價あるものとし、安心して通用するなり。

正貨にても、紙幣にても、これを偽造・贋造し、または、偽造・贋造と知りて使用したるものは、重罪に處せらるる法なれば、通貨を受け渡しする際には、よく注意すべし。

#### 第十四課 度量衡器

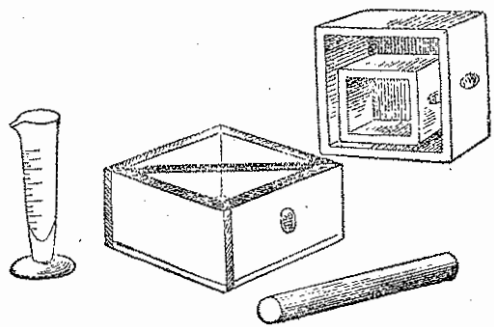
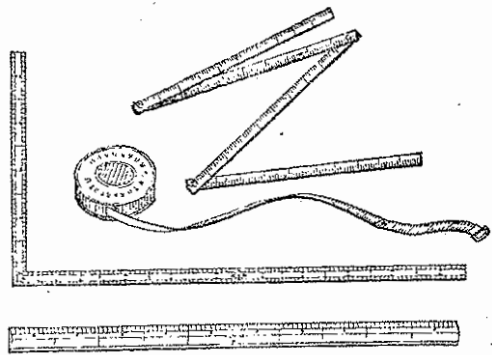
物を賣買するに、その大小・輕重などをはかる器具の一定せざるときは、賣るものと買ふものと、その利害異なりて、紛議止む時なかるべし。このゆゑに、その測るべき器具を確定し、國中一樣ならしむるは、きはめて必要のことたり。度量衡の三つは、すなはち、この要器なり。物の長さは、はかる器を度といひ、俗に尺モノサシといふ。度は、曲尺の一尺を本位とし、一尺の十分の一を寸、百分の一を分とし、一尺の十倍を丈



といひ、それより以上は、十進法に従ひ、何千何百何十丈といふ。また、もっぱら布帛の長さをはかるに用ゐる鯨尺といふものあり。その一尺は、曲尺の一尺二寸五分に當る。

物の入りみをはかる器を、量

といひ、俗に枓といふ。量は、四寸九分四方に深さ二寸七分のものを、一升といふ。これを本位とし、十進法によりて、何石・何斗・何升・何合・何勺



と數ふ。米一石三斗五升・油二合七勺と呼ぶがごとし。量器の大

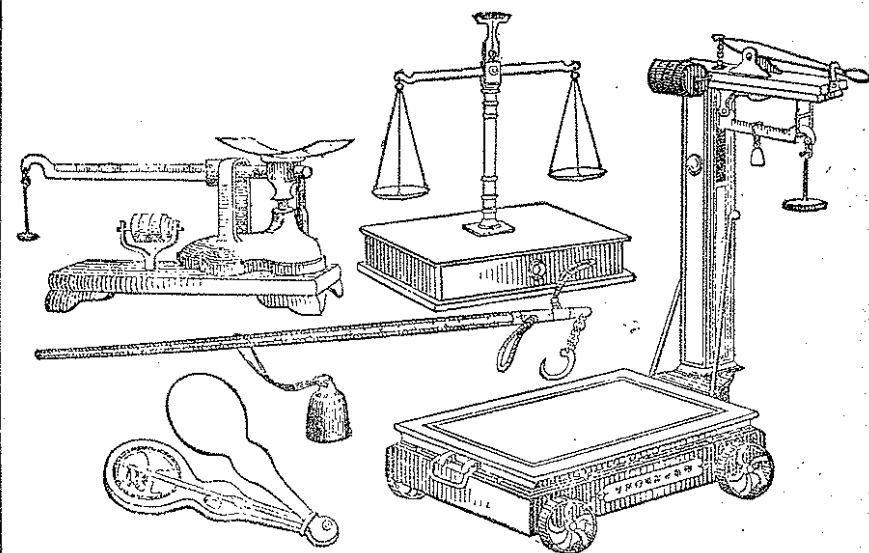
小は、五勺・一合・二合五勺・五合・一升・二升・五升・一斗等の數種あり。

衡器は、物の重さを計るものにて、俗に秤ハカリといふ。衡は、貫を本位とし、その千分の一を匁、萬分の一を分、十萬分の一を厘といふ。貫以上は、十進法によりて、何百何十何貫と稱ふ。また、斤と稱するあり。通常、百六十匁を一斤とすれど、英斤として、百二十

匁を一斤とする場合もあり。

以上の三器は、いづれも、その形状に種々ありて、これが材料にも、また、金屬・木・竹・角・硝子などの種類あり。

これらの三器は、その正確を保たんため、政府の特許を得たるものに



限りて、製造および販賣・修繕することを得、製器は、検定を受けたる後に發賣する定めなり。されば、隨意に、これらの製造または販賣・修繕をなし、あるひは、不正のものを商業上に用ゐたるときは、嚴罰に處せらるべし。

### 第十五課 商業算術

商業は、もと、損益に關する業なれば、商人の身に朝夕集り來る仕事は、多く、計算によりて答ふべきことならざるはなし。

商人は、つねに速算を旨として、無用の時間



を費さざるべきはいふまでもなく、かならず正確にして違算なきことを期し、かつ、商業上の知識を要する特別の算術には、ことに深く意を留めざるべからず。

特別の算術とは、利子の計算法・損益決算法のごとき、外國貨幣・度量衡の換算のごとき、その他、商業上の法律または習慣ありて、數理一偏にて計算すべからざるものをいふ。たとへば、物品の原價を計るにも、仕入代價・荷造費・運賃・送金手数料または損傷品の損失を計算し、

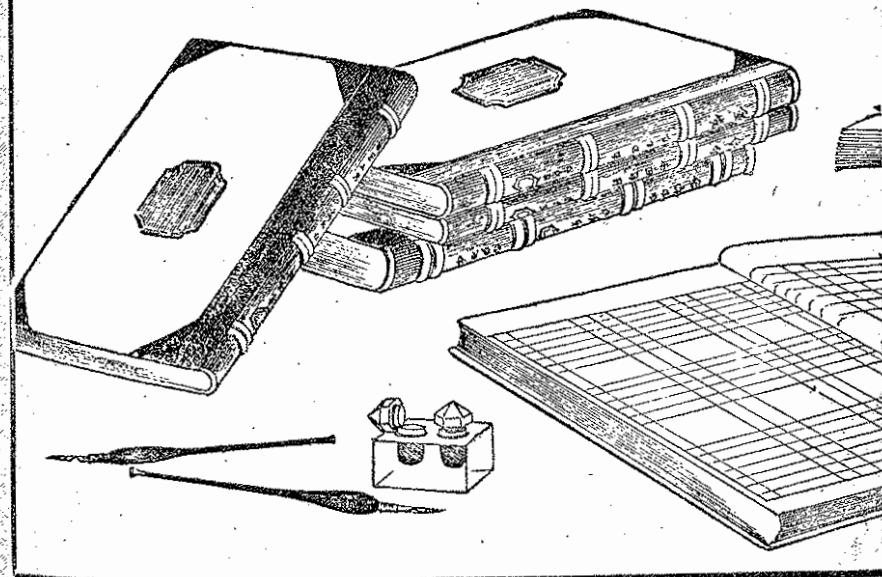
はじめに一箇または全量の原價を知り得るがごとし。

されば、商人は、つとめて商業算術を學びおくべきなり。

#### 第十六課 帳簿

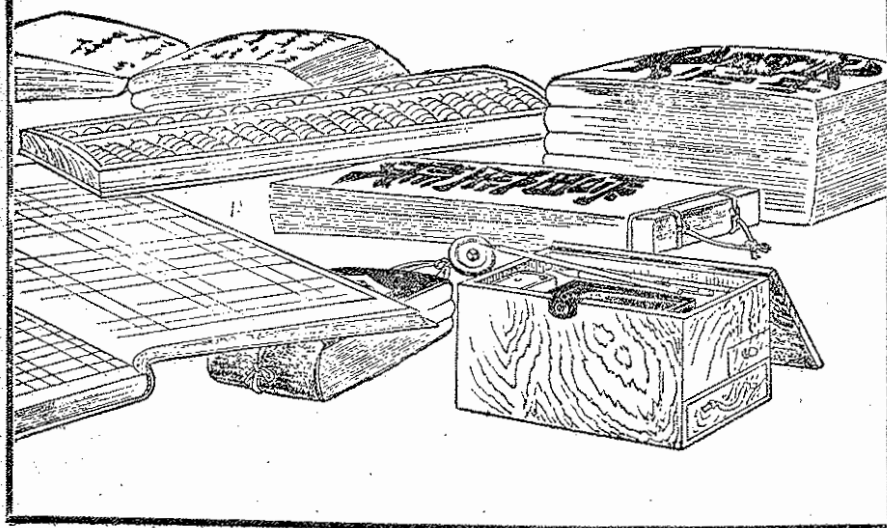
金錢の出納・商品の出入・貸借の關係・損益の多少を證し、何時にても、ただちにこれを知り得べからしむるものは、帳簿なり。商家における帳簿は、實に生きたる歴史ともいふべきものなり。もし、帳簿を明かにせざるときは、日々

起る百千の關係をことごとく記憶せんこと到底難きがゆゑに、商業を営むこと能はざるべし。帳簿の數と種類とは、商業の種類と規模の大小によりて異なれども、日記帳・仕譯帳・元帳・金銭出納帳・手形帳・賣上帳・仕入帳・荷出帳・荷受帳の



類より、臨時の心覺えに備ふる附込帳・品切帳・宿所帳の類まで、調製しおきて、見出法を簡明にし、用あるに當りては、立どころに捜し出すことを得るよゝになしおくべし。

わが國舊式の帳簿は、その製本においても、様





式においても、不完全の點はなほだ多ければ、なるたけ新式を加減して改良すべし。

帳簿は、後日の證據となさんがために記するものなれば、その文字は、舊式のごときなく、書きの大字を廢し、つつしみて明瞭に書くべし。もし、字を誤るか、または、脱字したるときは、その傍に書き直して、印章を捺すべし。かならず、ひき裂きあるひは切り棄てなどすべからず。

### 第十七課 信書

營業の盛んなるに従ひ、得意の區域、おひおひ廣まり、信書の發着、日を追ひて、その數を増し來るべし。

商業上

の信書は、

もっぱら、

字體の明

瞭と文章



東京市日本橋區  
吳服町五番地  
株式會社教育社  
御中

の簡明とを主とし、用向の要點をつくせば足れり。決して、無用の挨拶文などを記し、見分け

がたき走り書きなどすべからず。もし、かかる信書を受けたる場合には、多忙中の時間を空費するのみならず、その信書の要點を知りがたきことありて、雙方みな、大いなる不便を被るべし。

また、商品の注文、未著品の催促、その他、何事に限らず、他より信書を受けたるときには、猶豫なく返信を發すべし。これ、營業を盛んにする一手段なり。

おのれ、ひとたび問合の信書を發したると

きは、その返信を見るまでは、氣がかりなるものにて、もし、つひに、返信なからんには、その無禮を怒らん。然るに、これと反して、すみやかに返信の著するときには、その商店の、執務の迅速にて規律の正しきことを、想ふなるべし。

信書を受けたる時、もし、即答しがたき事柄などあるときは、まづ、取調べたる上にて返信すべき旨をいひやりおき、ついで、詳細に答ふるよゝにすべし。

## 第十八課 商店の設備



商業を営まんとするには、まづ、その店の位置および建築法等に注意せざるべからず。これらは、營業の繁昌すると否とに大いなる關係を有するものなり。されど、これらの事は、商業の大小・商品のいかによりて一定せざるものなれば、おのれの経験より得たる知識によりて決定する外なかるべし。

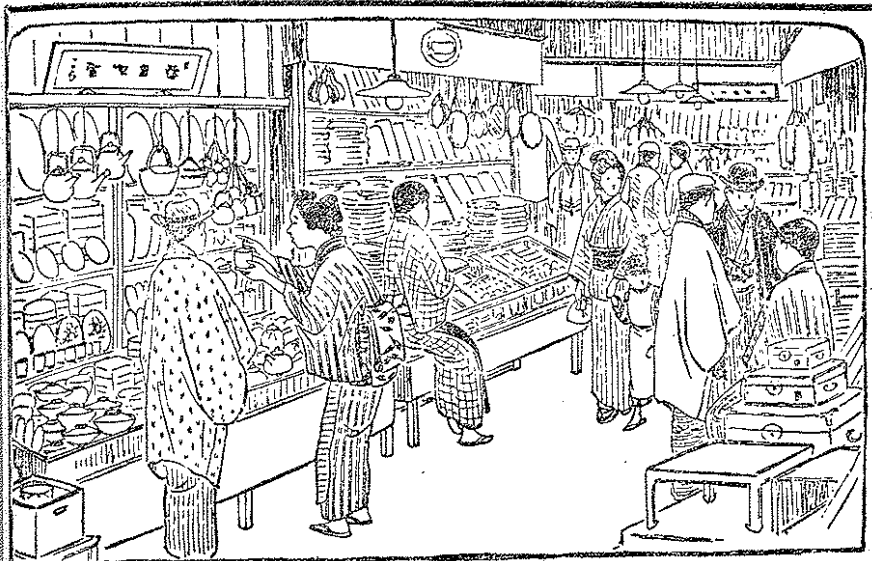
ただ、いづれの商業にても、客足をひかんとに注意して、その店つきを飾り、その店を清潔にし、その室内を明かにすること、肝要なり。

室内の陰氣なると店の不潔なるとは、不快の感を起すものなれば、たとひ、足を向けたる客にても、悶をまたげずして去ることあるべく、飾附けに意を用ゐるときは、商品の價をおとすことあるべし。

### 第十九課 商品陳列所

得意客をして、隨意に商品を觀しめんには、商品の陳列所を設くること、必要なり。

商品の陳列法は、窓の明け方および光線のかし方などに應じ、配置を整正して、美觀を増



さしむべし。然して、また、分類法にも注意し、たとへば、羅紗ならんには、厚手・薄手・縞物・綾織など、おのおの同類の物を同じき場所に陳列し、客をして、見くらべて選擇せしむる便を圖るよゝにすべし。

陳列品には、正價の札を附けおき、その場にてただ

ちに賣り渡す法もあるべく、また、見本のみを陳列するに止むるもあるべし。

陳列所は、自店の專有物とし、あるひは、他店と連合して共同物とし、あるひは、また、貿易品などにつきては、海外適當の地に設くる必要もあるべし。

## 第二十課 廣告法

おのれの賣り捌く商品の種類と商號とを、廣く内外の人に知らしむるは、商業の隆盛を謀るに必要な手段なり。この手段を廣告法



といふ。もし、廣告を  
なさずして、ただ漠  
然と開業したりと  
て、誰か買ひ求むる  
ものあらんや。

廣告法のもっと  
も善きは、通行人をして、店  
前に足を停めしむると、新  
聞紙の廣告を利用すると  
あり。



店前の廣告は、これを通行人の目または耳  
に感覺を起さしむるものなり。軒看板、自動花  
車あるひはオルゴールの類に新案を工夫し  
て、廣告に利用せば、通行人は、たえず代はるも  
のゆゑ、そのききめ少なからず。

新聞廣告は、もっとも少なき費用にて、もっ  
とも多くの人に廣告する良法なり。そのきき  
めは、急に現はれざれども、忍耐してたびたび  
廣告し、讀者の注意をたびたび新にする中に  
は、やうやく得意客を得るに至るべし。

されば、商人は、廣告の入費を一の營業費用と見なし、時と場合とを擇び、怠らず廣告して、世人に忘れられざるよゝにせざるべからず。

### 第二十一課 米

米は、わが國人の常食用として、賣買せらるるものなり。

わが國にて、米の一箇年間の產出高は、おほむね四千萬石に上れども、少しく不作なる年には、南京米といへる清韓地方の米を買ひ入れて、その不足を補へり。こは、質劣れども、價安

き利あり。

米の品位の良否は、その品質、粒の大小、堅脆、立筋の深淺、量の輕重、色つやの良否、調製の純不純などの點につきて、鑑定するものにて、熟練者には、實に驚くべき鑑定力あり。

ある處に、一人の米商ありて、日々、全國各種の米の品質を見て、これはどこの產、それはどこの產と、いひあてざることなかりき。ある人、ひとかに、四五種の米をまぜおきて、その產地を問ひたるに、ややしばらく考へたる後、これ



は、寺の齋米トキマイならんといひきとど。米商たるに恥ぢざる眼識といふべし。

## 第二十二課 生絲

生絲は、わが國貿易品中の第一に位し、各地ほとんどこれを産せざるはなし。

生絲の品質は、その彈力強く、太さ一定して節なく、光澤すぐれてよろしきがよし。光澤の外は、みな器械もて検査することを得べし。

内地にて消費する分は、おもに太く繰りたるものなれど、輸出向として製するものは、多

く細手にて、三粒つけ四粒つけなどなり。三粒つけとは、繭三粒の絲口を、一筋により合せながら、繰り出したるものをいふ。

## 第二十三課 註文

商品の買附を申込むを、註文といふ。註文に、口頭註文と信書註文とあり。

註文に對し、その場にてただちに商品の取引を終ふるものは、格別なれど、後日に關係するものは、一種の賣買契約なれば、他日行違を生ずるときは、註文せしものも、註文を受けし

ものも、みな、不利なるを免れず。ゆゑに、雙方みな、はじめに慎み、取引年月のいまだ浅きもの、または、多額の注文を受けたるものには、なるたけ、契約書または確實なる信書を取りおくべし。一旦契約したることに違ひ背くは、商人のもっとも恥づべき不徳なり。

商品の賣買を契約したるとき、買方より賣方に對し、その代金の幾部分を取引の日まで預けおくを、手附金または證據金といふ。手附金は、商品代價の高に應じて授受するものに

て、價の高低甚しき商品に對しては、その割合ことに多し。

手附金を預けたる賣買の契約を、買方にて違約したるときは、手附金の返附を求むることを得ず。もし、また、賣方にて違約したるときは、その金額を二倍して買方に返附するが定法なり。

されど、すべての賣買に、一々手附金を授受するときは、大いに取引の敏捷を妨ぐべし。ゆゑに、手附金は、相手の信用によりて必要を生



ず。信用厚くかつて違約せし例なき商人は、一音信の電報にて、數千萬圓の賣買契約を取り結ぶことを得べし。信用の、商人に必要なこと、これにて知らるべし。

### 第二十四課 小賣の取引

小賣は、商品と取り換へに代金を受け取り、それにて、取引を完結するものなれば、別にむづかしきこともなきよ―なれど、客の多きだけ、同業者も多きこととて、十分勉強せざるときは、客足を引くこと難かるべし。

まづ、品質を選びて、その價を安くすべきはいふまでもなく、時日などを約束したるときには、かならずその約を違へず、また、客の便利をはかり、客の尋ね來るを待たずして、この方より賣り込みに往き、または、客に賣りたる品を、客に持ち歸らしめずして、この方より届け、また、遠方に送るべき品ならんには、丁寧に荷造りし、運賃のもっとも安き途を求めて送るなど、つねに客の利益をはかることを忘るべからず。

これらの事は、すべての商業に必要な心得なれど、ことに、小賣をなすものは、この注意もつとも肝要なり。

### 第二十五課 卸賣の取引

卸賣の取引は、小賣の取引のごとく、目前に完結するものにあらすして、すこぶる複雑なり。ゆゑに、後日の紛議を豫防せんために、最初まづ、明瞭確實に取りきめおかざるべからず。いま、その肝要なる箇條を擧ぐれば、左のごとし。

第一は、商品の種類・品位・數量なり。たとへば、同じく、燐寸にても、數種あれば、その品位・等級と數量とを明白にすべきがごとし。

第二には、引渡の時日と場所となり。賣渡の契約期日に後るときは、破談せらるるのみならず、損害を辨償せざるべからざる事もあれば、その時日および賣渡の場所、何停車場渡し、著渡しの類などを明白にすべし。第三は、代金および代金支拂の方法なり。代金は、一見明瞭なるごとくなれど、その運賃



荷造費・保険料等は、いづれにて負擔すべきかを詳かにし、代金は、前拂・即金拂・掛拂の中、いづれになすべきかを明記する類なり。

### 第二十六課 問屋

福島の商人が、横濱にて生絲を賣らんとするとき、かの地に商店をもたず、また、みづから出向くも煩はしといふよゝなる場合には、これを、その地の問屋に委託して、販賣することを得るなり。問屋とは、もと、卸賣の通稱なりしかど、今日の商法にては、委託を受けて他人の

商品を賣買する商人をいふ。

問屋は、委託せられたる著荷の運賃その他を立て換へおき、やがて、適當の買人を見つけて、これを賣り捌きたる後、その賣上代金の中より、運賃・庫敷料および自分の受くべき手数料等を差し引き、その殘金に明細書を添へて、委託主に送るなり。この明細書を、賣上勘定書または仕切狀といふ。

問屋は、かく、荷主の委託を受けて、賣捌の業をなすのみならず、また、委託を受けて、商品の

買入をもなす。これを委託買附といふ。買附の場合にも、賣捌の場合と同じく、委託主より、代金幾圓にて買ひ入れよと、さしねを受くることあり。また、市場の相場にて買ひ附けられたしと委託せらるることあり。一に委託主の意に従ひて、事を取り計ふなり。

買附をなしたる商品の代金およびその運賃等は、前金を受け取りおくことあり。荷爲替にて受け取ることありて、一定せず。されど、問屋の仕事は、代理人にてなす姿なるがゆゑに、

立替金の利子等は、委託主より支拂ふべきものなり。

問屋は、ただ、賣買の手數料を得るに過ぎざる代りに、物價の變動ありても、その損益を被ることなく、また、委託主は、あづかの手數料を支拂ふのみにて、るながら、遠隔の地にて賣買することを得るがゆゑに、雙方みな、益を受くること多し。

## 第二十七課 仲立人

問屋は、自分の名義にて、自分に物品を保存



して、賣買取引をなすものなり。されど、仲立人は、賣人のためには、買人をさがし、買人のためには、賣人をさがし、賣人と買人との間を奔走して、賣買の周旋をなし、相談ましまれば、その賣人と買人をして、直接に取引をなさしめ、雙方より手数料を收むるを、その業とす。これ、俗にいふ周旋人なり。

いま、ある物を賣買せんとすれども、みづから、その相手を求むるに困難なることあり。かかる場合には、問屋および仲立人の媒介の效

著しきものなり。

## 第二十八課 競賣

賣買の方法に、競賣といふあり。俗に、これをセリウリといふ。

競賣は、多數の客の前に商品を示しおき、もっとも高く値をつけたるものに賣り渡す方法にて、買氣強きときは、その代價、際限なくせり上げらる。ゆゑに、こは、もっとも手早く、もっとも高く、賣り拂はんとする場合に、もっともよき方法なり。

また、一種、入札法といふあり。これは、競賣法の變形にて、附け値を口に呼ばず、小札に書き記して入札するが異なるのみ。

### 第二十九課 判取帳

一地域内に住める商人間の取引には、判取帳といふ帳簿にて、大いに事務を簡易にすることを得べし。判取帳には、物品判取帳と金銭判取帳との二種あり。つぎに、その一例を掲げて、これを説かん。

いま、甲店が乙店に物を賣りたる場合には、

その商品の種類、數量、代價等を記したる貨物賣渡證を作り、これを貨物に添へて乙店に届け、もし、即金拂なるときは、この證書の末に、代價領收の旨をも記入すべし。この方法に従へば、一取引ごとに一通づつの賣渡證を要し、手數煩雜なるがゆゑに、あらかじめ、甲店にて物品判取帳を製しおき、賣渡證に記載すべき諸件を記入せるものを乙店に示し、その受取印を受けて、賣渡の證とするなり。

また、乙店にては、商品と賣渡證とを引き合



せて、代金を甲店に支拂ひ、その代價領收證を受け取りおくが常なり。されど、この場合にも、また、かねて金銭判取帳といふを製しおき、その帳簿に受取證印を取り、別に領收證を求めざることあり。一枚づつの證書は、これを調製するに手数を要し、かつ、保存に不便なれば、これを判取帳として備へおくは、はなはだ便利なる方法なり。

### 第三十課 送り狀

遠隔地にある商人との取引は、積み出した

る貨物の先方に著するまでに、若干の日數を経るがゆゑに、その手續少しく異なり。

甲店、まづ、貨物の運送を運送店に託すれば、運送店は、その貨物の運送を引き受けたる證として、汽車・汽船會社の出せる貨物引換證を渡すべし。然して、荷主は、この引換證と商品の數量・代價・諸掛り等を記載せる送り狀とを乙店に送附するなり。

かくて、乙店にては、この引換證と引き換へに、その地の運送店より、貨物を受け取り、代價

を甲店に支拂ふ。その送金法には、郵便爲替・銀行爲替などの數種あり。

送金		一 何品 何額 一箱二何額	此代金 何額	諸品	一 金 運費	一 金 荷造費	一 金 保險料	合計金	但……(支拂の約定)	何品 何々 何々 何々 何々 何々	何品 何々 何々 何々 何々 何々	何品 何々 何々 何々 何々 何々
----	--	---------------	--------	----	--------	---------	---------	-----	------------	-------------------	-------------------	-------------------

第三十一課 郵便

郵便には、ただ、信書の送達のみならず、ある物品の送達・金銭爲替の方法まで備はりて、内國はいふまでもなく、るながら、海外のものと取り引きすることを得るなり。されば、商人はつねに郵便規則を心得おきて、郵便局員に、無用の手数をかけざるよ―注意し、また、これを利用して、營業事務の敏捷をはからざるべからず。

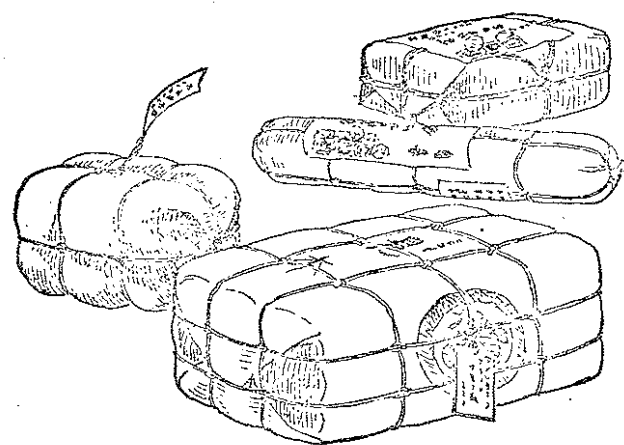
郵便は、内國郵便と外國郵便とに大別せら



る。多くは、郵便物の重量につきて税金を課し、里數に拘はらざるを法とす。また、外國郵便の中、わが國の郵便局の設けある韓國、清國の數箇所を送るべき郵便物は、内地と同税なり。わが現行郵便規則は、普通郵便物を五種に分つ、第一種は、封書、第二種は、端書、第三種は、新聞、雜誌、第四種は、印刷物および商品見本等、第五種は、農産物種子なり。商品見本は、參拾匁ごとに貳錢、農産物種子は、同量ごとに壹錢の切手を貼るべきことに定められたり。商品見

本および農産物種子の、普通信書などに比べて薄税なるは、これ、國家の農商業を保護する精神に出でたるなり。

普通郵便の外に、小包郵便の一法あり。大いさ二尺立方以内、重さ一貫五百匁以内のものを、郵送する事を得べし。その料金は、里數の遠近に拘はらず、重量の多少によりて一定せり。



郵便には、別配達・配達證明・書留・代金引換などの特別取扱法あれど、ここには、つまびらかにこれを述べず、よろしく規則の條文につき、これを知るべし。

郵便の制度は、はなはだ便益なれど、ことに

初等商業教本 前編



至急を要するものには、電信の設けあり。電信には、外國電報と内國電報との別あり。内國電報の中、また、和文と歐文との二種に別たる。

日常もつとも多く行はるるは、和文電報なり。その頼信文は、普通の信書と異なりて、本文を片假名にて認め、發信人および受信人の居所、氏名を本字にて記し、受信人の居所、氏名、振假名を附く。然して、發信人の居所、氏名を受信人に知らしめんとするには、一定の場所に片假名にて認め、本文の字數に加へら

るる定めなり。

電報料は、字數の多少に應ずるものにて、通常、本文の字數十五字までを貳拾錢とし、以上、五字以内を増すごとに五錢を増すべき定めなり。されば、なるたけ無用の字句を省きて、必要の事件だけを簡明に認むべし。

かく、電報料は、その字數に従ひて増加するものなれば、毎日幾回となく、電報の發着ある商店にては、暗號電報を利用して、料金の節約を圖るべし。暗號とは、普通語を符牒に作りた

る名にて、その例を擧ぐれば、左のごとし。  
 商業教本、リネ。 すぐに出發す、レロ。  
 指直いくら、ラヌ。 取引活潑、ヌユ。 委  
 細は郵便、ルナ。 荷物不著、ロウ。  
 かくのごとく、暗號電報は、多くの普通語を  
 わづか二字づつにて同様の意を傳ふるもの  
 なれば、その利益すこぶる大なり。ゆゑに、商家  
 は、つねに、自店と取引先との間に、同一の電信  
 暗號辭書を備へおき、これによりて、取引の敏  
 活を圖るよゝにすべし。

電報にも、また、至急電報・返信料前納電報・追  
 尾電報など、各種の特別取扱法あれば、かねて、  
 條文を熟覽しおき、臨時の實用に供すべし。

### 第三十三課 商業と地理

學校にて地理の事を學びても、ただ、山の高  
 さ・川の長さ、または、名所古跡の話だけを知る  
 に止まるときは、その効きはめて少なし。ゆゑ  
 に、地理の事を學ぶものは、さらに、これを商業  
 などの人事に應用して、大いに人生の幸福を  
 増さんことを圖らざるべからず。



いかなる氣候の地には、いかなる生物を産するか、いかなる土質の國には、いかなる礦物を産するか、人口多き國は、商業に、いかなる關係を有するか、人民の風俗と習慣とは、いかなるかなど、すべて、商業上より觀察して、これを實用に供することに勉めたらんには、地理學の效用、實に大なりといふべし。

ことに、今日のごとく、諸外國を相手として、商業を營むに當り、世界各國の事情に通ぜざるときは、到底海外との商戰に勝を制するこ

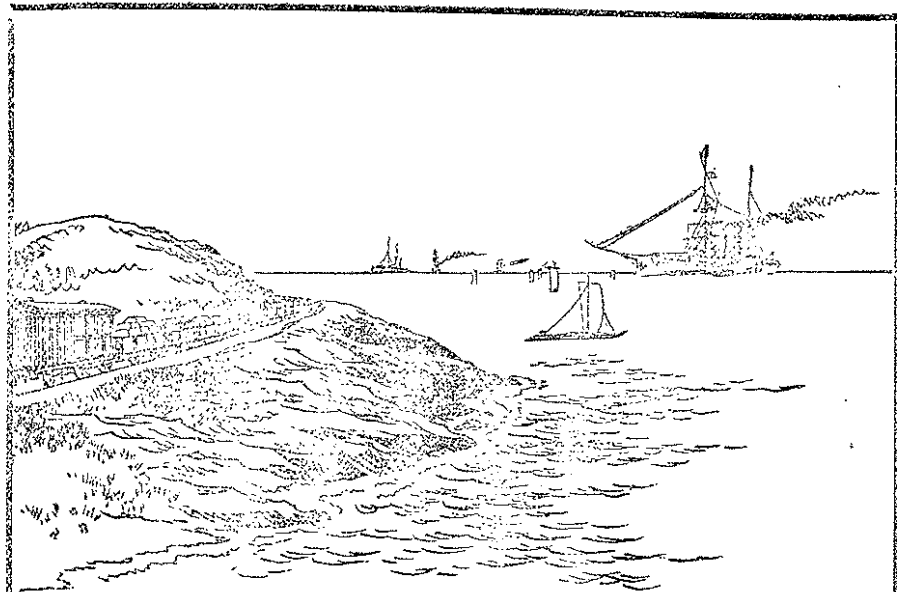
と難かるべし。

されば、地理學は、商業學を學ぶにはなほだ必要なる學科なりと知るべし。

### 第三十四課 交通運輸

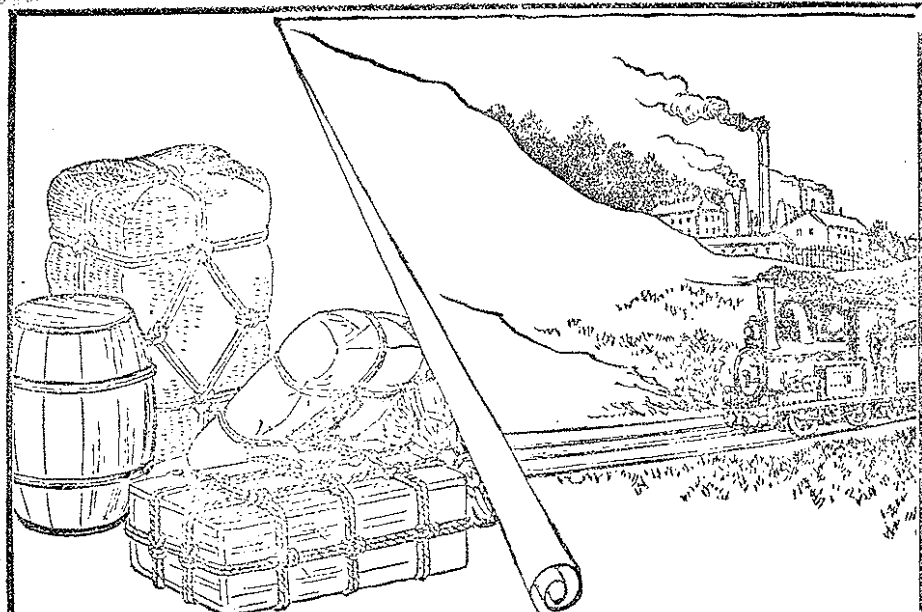
海陸における旅客および貨物運輸の機關は、おもに、鐵道と船舶とによる。これら交通運輸の便ある地方は、その商業を活潑にし、農工業を盛んならしむること、明かなり。

全國の鐵道は、官業と民業とによりて營まれ、その長さ、すでに四千三百哩に達し、いまな



ほ、延長せられつつあり。幹線は全國を縦に貫き、左右の重要地には、枝線を分ち、全國都會の地、おほむね、この便益を受けざるはなし。

鐵道の取り扱ふ貨物は、普通貨物と小荷物、手荷物とに別たる。多くの商品は、普通貨物の部に



て、その品類によりて、運賃に高下あり。

わが國の海運業は、近年著しく盛大となり。全國の船舶五千四百餘艘、その噸數九十餘萬に上れり。されど、これを英吉利、獨逸などの諸外國に比ぶれば、なほ、及ばざること遠し。



わが國、汽船會社の大いなるものは、日本郵船・大阪商船・東洋汽船の三會社なり。これらは、みな内地はいふまでもなく、外國の要港に支店または出張所を設け、定期または臨時に、その間を航海し、旅客および貨物の運送を取り扱ひをれり。

外國航路のおもなるものは、清・韓・ウラジオ・ストック・印度・歐羅巴・濠太利・亞米利加などに及び、船舶の往來つねに絶えず。

鐵道便は、早く届く代りに、その運賃は、船賃

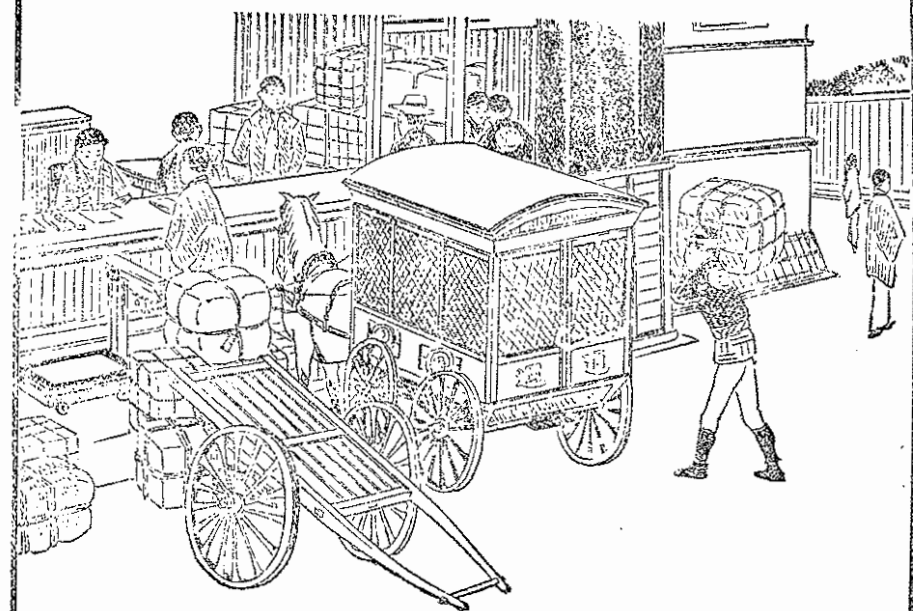
よりも高し。ゆゑに、急を要せざる貨物は、船便を取るに利あり。船便のうちにて、汽船便は早くて、その運賃高く、帆船便は、然らず。

### 第三十五課 運送問屋

貨物の運送を、鐵道または汽船の會社に依頼せんには、運送問屋の手を経るを便利とす。これ、運送問屋は、運送業を専門の仕事として、その業務に熟達し、かつ、海陸各地との連絡もつき、その手数を省くこと多きによる。

運送すべき貨物を運送問屋に委託すれば、

運送問屋は、これを鐵道會社または汽船會社に廻し、會社より出せる引換證船便にては、船荷證券と稱すを荷主に引き渡すべし。荷主は、この引換證に送り狀を添へて荷受人に郵送すれば、荷受人は、引換證と引き換へに到著したる貨



物を受け取ることを得るなり。

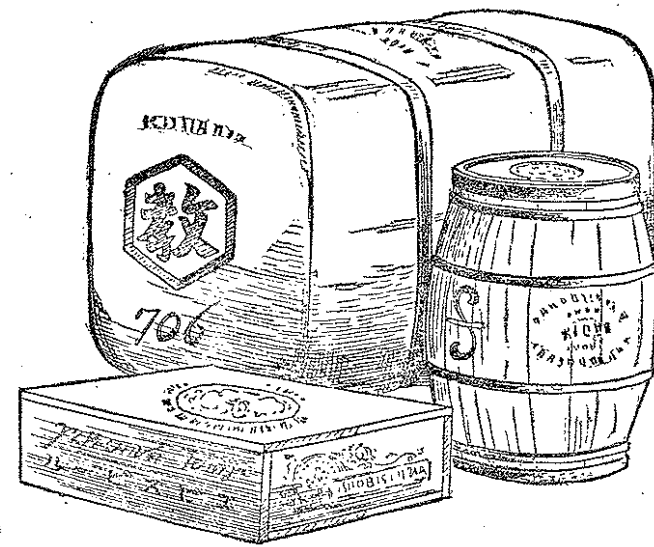
### 第三十六課 荷造と荷印

貨物が、荷造の不完全なるにより、運送の途中にて、破損または變色、變質するなどのことあらば、つまり、荷主の損失となるべきものなれば、商品の種類に應じて、相當の包裝と荷造とをなし、これらの損害を防ぐよゝにすべし。海外諸國の商人は、遠く送荷することに馴れ、包裝、荷造法など研究して、つねに貨物の安全をはかることを怠らず。



荷造の成りたる貨物には、荷印および番號または何箇の内などの記號をもつとも見易き場所、に標記すべし。これ、運送中、貨物の積卸などにもつとも必要なるによる。

わが國の荷主は、貨物ごとに、何々商店行、何個



の内など、標記するを常とすれども、こは、他の商人に機密の漏るる不利あるを免れず。ゆゑに、歐米の荷主は、大抵荷印と番號とのみを標記し、一號より百號までは某店、百一號より五百號までは某店行の類は、運送者の手許にある運送委託書に明記するを常とす。これ、わが國の荷主の學ぶべきことなり。

### 第三十七課 商標登録

ここに、稻妻光吉といふものあり。燐寸製造者とあひ謀り、きはめて品質を吟味し價を安



くし、雷公の商標をつけて賣り出せり。初は、年々損失ありしかど、辛苦して勉強する中に、品質善き上に價安しとて、おひおひ世人の信用を得、數年の後には、雷様燐寸として、人みな、まづ、雷公の標を尋ねて買ひ求むるに至りたれば、その販賣高ますます増加し、損益あひ償ふのみならず、あまたの利益をも得るに至れり。

然るに、また、これを羨みたる奸商ありて、下

等の燐寸に、同じく雷公の標をつけて賣り出したりとせん。數年間辛苦して信用を得たる、稲妻商店の迷惑、思ふべきなり。

商標法の規定は、かかる場合に、眞の商人を保護する精神にて設けられたるものなり。商標とは、商品の入れ物などに附くる目印なり。さて、商標法によりて登録許可を得たる商標は、本人のみ專用權あるものにて、他人、もし同種の商品に同一または似よりの商標を用ゐて賣り捌きたるときは、たちまち罰を被る



べし。

されば、前例にて、稻妻商店が、雷公の商標登録を請ひて許可を受けおくときは、その後、奸商ありとも、同一または似よりの商標を隣寸に附くること能はざるなり。

### 第三十八課 商號登記

ここに、日用堂といへる商名にて、筆紙墨の商業を始めたるものありとせん。真正の品物のみを安く賣り出したれば、筆紙墨を買はんとするものは、多く、この商店を尋ね來ること

となれり。

然るに、また、ここに奸商あり、同町内に同名の日用堂を開店して、同じく筆紙墨を發賣し、買手は、その眞贋を知るに苦みたりとせば、眞の日用堂の迷惑を受くることいふまでもなかるべし。

商人の屋號・堂號・會社名など、これを商號といふ。商號は、裁判所に願ひて登記を受くることを得べく、登記を受けたる商號の專用權は、本人に屬し、他人が、同一の市町村内にて、同一

の商號を用ゐて、同一の營業を始むること能はざる定めなり。

かく、商標と商號とは、商人に利害の關係深きものなれば、まづ、その手續を履んで、信用を保つべきこと、きはめて必要なり。

### 第三十九課 特許と意匠登録

新奇有益の機械および製造法などを發明したるものが、農商務大臣に出願して、その特許權を得たるときは、ある年限間、その發明物、發明法の製造、販賣、使用權を獨占することゝを

得べし。これを特許といふ。

新奇の發明によりて、工業を盛んにし、生産を増殖するときは、天下の利益となる。されど、かかる法律なきときは、數年間苦辛して成せる發明も、ただちに、他人にまねられて、發明に對する報酬を得がたく、つひに、精思忍耐して發明に志すものなきに至るべし。これ、特許法によりて、發明者を保護するゆゑなり。

また、ある物につきて、その形狀模様などの新案を考へ出だし、農商務大臣に出願して、そ

の意匠の登録を経るときは、これを意匠登録といひて、また、他人の製造販賣することを許さざるなり。その新案者を保護する精神は、特許法に同じ。

特許品または意匠登録品は、みな、その商品に表示しおく定めなり。他人、もし、これを偽造し、または、類似のものを作りてその権利を侵害したるときは、刑事上の處罰と民事上の損害賠償とを免るべからず。

以上二種の権利は、これを譲り渡し、または、

一部分の分け譲りなどをなし得るものなれば、商人は、その法律を心得おくことは必要なり。

#### 第四十課 商人と訴訟

眞の商人は、愛敬・誠實・勤儉を旨とし、日もちれ足らずとして、營業に従事するものなり。何を好みてか、原告となり、または、被告となりて、法廷内に論争し、空しく時間と金錢とを費すことをなさんや。

されど、日々取引する相手は多數にて、いか



にこれに注意するも、一二の不正者なきを保すべからず。もし、われをして、故なき損害を被らしめんとする場合には、いかに、これを處すべき。

訴訟は、もつとも忌むべき事なれども、わが生命、財産は、國家の法律によりて保護せらるべきものにて、何人にも、この權利あり。然るに、不正者にその權利を蹂躪せらるるは、忍ぶこと能はざるにより、已むを得ず、裁判所の判定を仰ぐに至るなり。

されば、事件の大小種類のいかんによりては、紳商または商業會議所に仲裁を依頼してその判決に服し、なるだけ訴訟を避くるよゝにすべし。されど、自己の權利を保護せんためには、原告となり、被告となることをも辭すること能はざる場合あり。

#### 第四十一課 經驗

商業の學問を修めんには、小學校に商業科あり、また、補習學校あり。その上には、商業學校、高等商業學校などあるがゆゑに、それぞれ望

の學校に入るべし。されど、商業の學問の外に、商業上の經驗なきときは、眞の商人となること能はざるべし。

商業には、種々の習慣ありて、學問の外に、學ぶべきこと多し、物價の變動、景氣の良否、商品の目利き、あるひは、取引商人の性質、信用を鑑定することより、營業の組織、使用人の使方などに至るまで、實地經驗の功を積むにあらざれば、出來得ざること少なからず。

されば、商業は、學問を習ふのみにては、實地

の經驗に暗く、實地の經驗を積みても、學問なければ、ある事に出逢ひたるとき、これを判斷する知識に乏し。ゆゑに、この兩者を併せ、修めて、はじめて眞の商人となることを得るなり。

#### 第四十二課 運はみづから造る

商業によりて、巨萬の富を致せるものあるを見れば、人、かならず、これを評して、かの人、運好き人なり。といふ。されど、好き運は、故なくて來るものにあらず。かならず、みづから造り成せるものなり。

かの、巨萬の富を造れる人は、平生、質素を旨として、信用を重んじ、朝となく夜となく、一身の全力を商業に注ぎ、つねに、商機を見出さんことのみを思ひ續くるゆゑ、平生の計畫は、おのづから熟して、商機を見出し易く、ひとたび手を出せば、かならず成功せざるなし。好運は、あに偶然に來るものならんや、みづから勉めて、これを造りたるものと知るべし。

#### 第四十三課 商家子弟の心得

商家に生れたる子弟は、幼少の時より、商業

に心をよせ、行く末は、大商人となりて、父母・兄弟の名までも揚げんと心がくべし。

行く末、大商人とならんとするには、まづ、商業上の學識を有すべきこと勿論なれど、また、暇あるごとに、父兄の商業を手つだひて、あるひは計算を助け、あるひは手紙を書くけいこをし、あるひは客扱の法または取引の實務などを見習ふべし。

われらは、學校に出でては、商業の學問を修め、家にありては、實地の業務を修むるよゝに



T1A3  
67  
Se93

初等商業教本 前編

百

せざるべからず。かくして勉め勵まんには、他日、かならず、よき商人となるに至るべし。

初等商業教本前編終

高等小學部  
明治三十三年  
商業科  
檢定  
兒童用  
八月二日

明治三十六年十月十四日 印  
明治三十六年十月十七日 發行  
明治三十六年十一月卅日 訂正再版印刷  
明治三十六年十二月三日 訂正再版發行

不許複製

著作 切田太郎

發行 無  
印刷 辻 太

發行所 東京市神田區小川町九番地  
開 發 社

賣捌所 各府縣特約大賣捌所

初等商業教本全書目録

定價	前編	金貳拾四錢
後編	金貳拾八錢	



